

① 学習指導案

プログラム	No. 「 8 」
単元名 (全 時間)	私たちのまちのよさや課題解決を伝え、地域景観プランナーになろう ～花とまちの融合～
学習のねらい	花とまちの融合」をテーマに、まちの美しさに気付き、自分のまちに愛着をもつ。
学習内容	1.どんな写真を撮りたいか自分たちの課題を設定する 2.自分たちの決めたテーマの写真を撮る 3.自分たちのテーマを表現する 4.景観を構成している地域の花をどのように守り育てるかを考える
参考資料 準備品 実施場所等	・本、インターネット ・カメラ、カメラフィルム、展示用の額縁、パーテーション、台紙 ・学校、街

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	どんな写真を撮りたいか自分たちの課題を設定する	花とまちが融合していることが伝わる写真を撮ることを説明する。	活動への意欲
2	自分たちの決めたテーマの写真を撮る	他のグループの写真構図（イメージ）を参考にできるように、情報を共有できる設定をしておく（ロイロノート）	課題設定能力 (観察)
3	自分たちのテーマを表現する	写真の構図を意識する（その写真は何を伝えたいか）	表現力（写真）
4	自分たちのテーマを表現する	友達と話し合いながら活動する場を整える	コミュニケーション力（発言）
5		情報共有できる設定をしておく（ロイロノート）	情報分析力 (観察)
6		展覧会を開くにあたって準備しなければならないことに気付かせる 写真に込めた思いを言葉にして発信させる	計画力（観察） 表現力（発言）
7	景観を構成している地域の花をどのように守り育てるかを考える (人々の思い、花が与える景観効果や問題点)	SDGsの視点から、花が与える景観への効果やよりよくするための持続可能な取り組みを考え共有する。感じたことを言葉にして伝える。 課題を認識し、解決するプロセスを学ぶ。	表現力（発言） 課題解決能力（発言） 主体性（観察）

<留意点>

交通安全、散策マナー、撮影中の周囲への注意、安全配慮

② 事業実施報告書詳細

学校名 永野小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1 ・ 2	教室	どんな写真を撮りたいか自分たちの課題を設定する		<p>花の魅力が伝わるようにしようと、友達と話し合いをした。</p> <p>自分たちで課題を考えた。 友達のアイデアも参考にしたいという思いをもった。</p>
3 ・ 4	校外 (学校周辺)	自分たちの決めたテーマの写真を撮る		<p>街には家の花、道路の花、お店の花など、たくさんの花が存在することを再認識した。</p> <p>街にある花の魅力が伝わるように工夫して撮影をする姿が見られた。</p>

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

1.身近なテーマ設定

子どもたちにとって身近で親しみやすい「街と花」というテーマを選び、自分たちの生活との関係を考えることで学びを深められるようにした。

2.調べ学習と実体験のバランス

街中の花を観察する校外学習や、実際に花を育てる活動を取り入れ、体験的な学びを実感できるようにした。また、調べ学習では「ロスフラワー」「SDGs」などを掘り下げ、自分たちの考えを広げられるようにした。

3.多様な視点を取り入れる

街の美観や癒しとしての花だけでなく、環境保全の視点も取り入れ、持続可能な街づくりの一環として花の重要性を考えさせた。

4.子ども同士の対話を促進

活動の中でペアやグループでの話し合いや発表の機会を多く設け、意見交換を通じて新しい気づきを得られるようにした。

5.達成感を味わえる工夫

活動の成果を掲示物やプレゼンテーションにまとめて発表する場を設け、自分たちの学びが形になる経験を作った。また、保護者や協力者に活動を共有する機会を設け、学びの意義を感じられるようにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

子どもたちがテーマに興味を持ち、主体的に取り組むための支援に苦労した。

1.興味関心の差への対応

最初の導入でいかに魅力的な問いを投げかけるかに工夫が必要だった。例えば、「どうして街に花が必要だと思う？」といった問いかけをしたり、写真や映像を使って視覚的に興味を引き出したりした。

2.多様な視点を取り入れる難しさ

花を「美しいもの」や「癒し」としてだけでなく、環境保全の観点で考えさせることは、子どもたちにとって少し難しい面があった。そのため、具体例や分かりやすい図や写真を使うなど、説明方法に試行錯誤した。

3.地域との連携

活動の中で地域の方々の協力を得る必要があった。連絡はこまめにとるようにしたため時間がかかった。また、子どもたちがどのように行動するかを事前に予想し考え、先回りをすることに苦労した。

4.成果発表の準備

活動の成果を発表する際、子どもたちのまとめ方や表現方法にばらつきがあった。一人ひとりの考えを尊重しながらも、発表内容を整理して全体としてわかりやすい形にするために調整が必要だった。

(3) 児童の反応

テーマに対して非常に前向きに取り組み、多くの気付きや発見をした。

1.身近な発見に感動

街の中にこれまで気付かなかった花の存在に驚き、「こんなところにも花があるんだ!」といった発見を喜び声が多く聞かれた。

2.テーマの意義を考える姿勢

活動を通じて、花が街の美観を保つだけでなく、人々の心を癒したり、環境に貢献していることに気づき、「花をもっと大切にしたい」という意見や、「自分も家で花を育ててみたい」といった前向きな発言が見られた。

3.地域とのつながりの実感

地域の方や協力者と話す中で「地域の人たちが花を大切にしていることを知った」「自分たちも何か役に立ちたい」といった声があり、地域への感謝や関心が高まった。

4.活動への満足感

成果発表や地域の方との交流を通じて、活動が形になったことに達成感を感じ、「もっといろんなテーマで街を調べたい」という意欲的な声が聞かれた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

1.子どもの可能性への再認識

子どもたちが校外学習や調べ学習を通じて、自分たちの街やテーマについて深く考え、発見したり意見を共有したりする姿を見て、「子どもたちは想像以上に多くのことを感じ、考え、行動できる」ということを改めて実感した。それによって、「もっと子どもたちを信じて任せてもいい」という思いが強まった。

2.学びの進め方の変化

授業を進めるうえで、自分が「教える」よりも、子どもたちが主体的に「考える場」や「発表する場」を作ることの大切さを再認識した。これにより、子どもたちのペースや興味を尊重しながら、サポート役に徹する意識が高まった。

3.授業を楽しむ姿勢の変化

子どもたちと一緒に街の花を観察したり写真を撮ったりする中で、私自身も街の魅力を再発見し、学ぶことの楽しさを改めて感じた。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等] 児童の思考を深め、学びを持続的なものにする指導が課題と感じた。

1.問いかけの工夫

考えを掘り下げられる具体的な問いを準備し、児童自身が問いを立てる力を育む。

2.思考の可視化

シンキングツールや振り返りを活用し、児童の考え方を整理・共有する。

3.主体性と指導のバランス

自由な発想を尊重しつつ、学びの目的を明確に示す。

4.多様な視点の共有

話し合いを増やし、他者の意見を受け入れる柔軟な思考を促す。